

特別支援学校（肢体不自由）に在籍する中学 1 年生の生徒が居住地校交流を行うための取組

1. 事例の概要

A 生徒は特別支援学校（肢体不自由）（以下「B 特別支援学校」という。）に在籍する中学 1 年生で、肢体不自由のある生徒である。A 生徒は、脳性麻痺と知的障害、自閉症スペクトラム障害を併せ有し、歩行は可能であるが短下肢装具・靴を着用している。段差でつまずいたり、斜視のため見ることに関する課題もある。

本事例は、小学部段階で 6 年間継続してきた居住地校交流の積み重ねを経て、新たに居住地の C 中学校の通常の学級の生徒と音楽の授業や学年集会を中心に交流及び共同学習を実施するにあたり、両校で合理的配慮を検討した取組である。

キーワード 肢体不自由、居住地校交流、ガイダンス、事前事後学習

2. 生徒の実態

A 生徒は、B 特別支援学校に在籍する中学部 1 年生で、脳性麻痺による肢体不自由、知的障害、自閉症スペクトラム症の診断を受けている。歩いたり走ったりすることはできるが、両膝下に装具を付けており、室外では慌てて歩くとまれにつまずくことがあるので、注意が必要である。斜視があり、眼鏡を掛けている。

日常会話を十分に理解し、自分から挨拶をしたり、教員や先輩には丁寧な言葉遣いで話をしたりすることができる。

3. 本事例に関する基礎的環境整備

- B 特別支援学校では、地域で学ぶ肢体不自由を有する児童生徒への支援として、6 市町の各教育委員会より委託を受けて、小・中学校での児童生徒の介助員を対象にした「介助員研修会」を開催している。B 特別支援学校の授業参観や車椅子の操作、介助法の講義や実技を行っている。【基礎 1】
- B 特別支援学校では、児童生徒の生活の場を広げ社会参加を促すとともに、相互理解を深める交流及び共同学習を推進することを目標として様々な活動を行っている。交流委員会を設置して交流及び共同学習を推進している。【基礎 8】
- 交流委員会が中心となり、交流及び共同学習の理解・推進のために、交流相手校でのガイダンスを行っている。ガイダンスは、交流先の児童生徒や教職員を対象とし、B 特別支援学校の紹介、障害についての説明、B 特別支援学校児童生徒の紹介等を行っている。【基礎 8】
- 交流先の学校との連携を深めるために、「活動のねらい」や「活動内容」、「児童生徒の様子」を記入した居住地校交流シートを作成し、シートの活用を推進している。【基礎 8】

4. 合意形成のプロセス

A 生徒の保護者は、交流及び共同学習に対して前向きには考えているが、配慮して

ほしいことやできるようになってほしいこと等の要望は挙げられなかった。そこで、A生徒の支援にあたっては、保護者に支援の内容や方法について十分説明し、合意形成を図りながら進めていくことにした。

5. 合理的配慮の実際

- A生徒のB特別支援学校での学習や生活について、小学部まで行ってきた居住地校交流での合理的配慮をふまえて、事前に交流先のC中学校担当教諭とA生徒への配慮事項について確認した。例えば、階段の段差は一人で上れる高さであるか、スロープ周辺や廊下等は移動しやすくなっているか、校内の段差や手すりはA生徒に不都合はないか等を確認した。【合理①-1-1】
- A生徒には斜視があり、見えにくさを伴うことやより集中して話が聞けるようにするため、小学部までの交流及び共同学習で培った経験をもとに、教室の座席を見やすい場所である黒板に向かって右側の前列に決めた。【合理①-1-1】
- 最初の居住地校交流までに、交流先のC中学校の担当教員が、A生徒が自分で書いた自己紹介文を学級の生徒に紹介し、居住地校交流で来校することを知らせた。【合理②-2】
- 居住地校交流の事前学習では、A生徒に1日の日程や活動内容等について一覧表にして伝え、居住地校交流当日の動きについての見通しを持たせた。また、一覧表を使って活動ごとのA生徒の目標を考え、終了後には立てた目標について振り返りを行った。【合理②-2】
- 最初の居住地校交流の時に、地域の地図をもとにA生徒が住んでいる自宅を確認し、A生徒もC中学校の生徒もお互いに、同じ居住地の一員であることを確認した。【合理②-2】

6. 本事例の成果と課題

交流の前には、C中学校学年主任・担任とB特別支援学校担当教員、合理的配慮協力員が一同に介し、事前打ち合わせを行った。両校のねらいを共有した上で、お互いの生徒が力を発揮しやすい授業や活動を設定し、事前に十分な準備を行うことができ、見通しを持って取り組むことができた。

主に「学習内容の変更・調整」「学習機会や体験の確保」「心理面の配慮」の合理的配慮を行うことで、A生徒が、自身の姿を見つめる良い機会となり、どうすると良いか具体的に気付くことができた。その気づきを日々の学校生活の中で課題として取り入れた結果、意欲をもって課題に取り組もうとする姿が見られ、できたときの達成感や自信へとつながった。